

小論文 問題

次の文章を読み、後の問に答えなさい。

現在、就労に困難を抱える若者に対する関心が高まるなか、そうした関心と絡み合う形で若者の自尊心にも注目がなされるようになっていく。

例えば、内閣府「子ども・若者ビジョン」では、ニート・ひきこもり等の若者など、就労が困難な若年層に対する支援の一つとして「就業能力・意欲の習得」「就労等支援の充実」の二点を強調している。そのうえで「自尊心や自己肯定感を高め、自立した個人としての自己を確立する」ことの重要性を指摘している。この「子ども・若者ビジョン」に象徴されるように、ニート・ひきこもり研究では、自尊心の低さを無業の状態にある若者の職業行動の背後に読み込むという問題意識は広がりつつある。

また、より労働行政に近いところでは、やはりニートに関する議論で言及がみられる。例えば、2007年6月に、厚生労働省職業能力開発局から発表された「ニートの状態にある若年者の実態及び支援策に関する調査研究報告書」(同局、2007)では、ニートが生まれなための長期的展望に立つ取り組みの一つとして、「読み書きが苦手、速度の速い作業についていけない、わからないことを質問することができない、自信がない、自尊心が低いために職場に適応できない若者」の問題を取り上げている。

このように、ニートに象徴される若年就職困難層との関連で、若者の自尊心は改めて注目を集めている。

従来、若年者問題の主たる要因として若者自身の意識の問題を論じることは、若者を取り巻く社会全体の問題を若者の意識の問題に矮小化させる議論であるとして忌避されることが多かつた。特に、若者自身は働きたがっているのだから、若者を取り巻く社会経済的な環境を整える方に注力すべきであるといった論調は、時に説得力をもって受け止められる場合があつた。

しかし、本来、若年者問題の深刻さとは、さまざまな社会経済的な要因によって若者が就労の場から疎外されることそのものにあるというよりも、むしろ、そうした状態を長く続けてしまうことによって、自信、自己評価、自尊心といったものがゆっくりと奪われていってしまうことにある。例えば、厚生労働省社会・援護局(2010)は「生活保護受給者の社会的な居場所づくりと新しい公共に関する研究会報告書」の中で、「求職活動を続けるがなかなか職に就けず、自尊心を喪失し、生きていくことや、物事に取り組む意欲を失ってしまう人が少なくない」と指摘する。必ずしも若年層に限った指摘ではないが、就労行動と自尊心に関係があることが明確に指摘されている。

ひとたび無力感、空虚感、敗北感といったものに包まれてしまった場合、そこから脱して生活を立て直すことは容易ではない。

その理由を、キャリア心理学の古い学説は、自尊心が高い者は自分の特性と合致した職業を選ぶことができるが、自尊心が低い者はそれができないためであると述べる(Krman,1966)。つまり、自尊心が低い者は自分を尊いと感じる気持ちが低下した状態にあるため、いわば捨て鉢になりやすくなっており、そのため自分にあつた職業を選ぼうとする点に関心が向かわず、結果的に就労行動をはじめ生活全般が自暴自棄なものになりやすくなる。自尊心を高めるには何らかの形で就労に向かわせるのがもっとも確実なのだとしても、そもそも就労に向かう気力が奪われてしまうことが問題となるのだ。

(以下略)

(下村英雄「若者の自尊心と若年キャリアガイダンスの今後のあり方」『Business Labor Trend』2012年5月号より。一部修正している)

【問1】なぜ、就労に困難を抱える若者の自尊心が低くなっているのか、その理由を100字以内(句読点を含む)で述べなさい。

【問2】著者は、就労に困難を抱える若者が適職の選択をスムーズに進めるためには、どのような心理的支援が効果的であると述べていますか。あなたの意見を含めて、400字以内(句読点を含む)で述べなさい。